

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

今、皆さん、一人一人に、卒業証書を手渡すことができ、ホット胸をなでおろしています。

今年度、珠洲市においては、規模を縮小した卒業式となりました。来賓の方も、在校生もこの式場に姿はありません。歌い継がれてきた歌の合唱もお別れの言葉もありません。大変、さみしい卒業式となりましたが、卒業生の皆さんには、この残念な思いを吹き飛ばすくらいの強さと、六年間の楽しかった思い出を胸いっぱい膨らませて、明るい笑顔でこの学び舎を巣立って行ってほしいと思います。

今、私たちは、普段何気なく過ごしている当たり前の日常のありがたさを実感しています。平凡な日常の中にこそ、安心と安全な暮らしがあり、幸せがあることを思い知らされます。そして、困難に出会ったときに、決してくじけることなく、みんなで支え合って乗り越えていく力が必要であることを学ぶことができます。今までにない経験。この経験が一人一人のこれからの糧となることを心から願います。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。お子様の六年間の成長ぶりに、感慨深いものがおありかと思えます。学校に対しましても、長い間、ご理解とご協力を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。

この機会に、保護者の皆様にご紹介したいことがあります。書家であり、詩人である相田みつを氏について、皆様、ご存知のことと思えますが、氏が小学校のPTA活動で会長を務められていた頃のノートが見つかったそうです。そこに、次のような三か条のメモが書かれていたそうです。

- 一、私たちは未来の社会を予測できない
- 二、子どもは、その未来の社会を生きるものである
- 三、その時、親の手は届かない

だから、子どもをどんな社会にも正しく適応し、たくましく生きられるように育てておくことが、親の大事な務めなのだ。そして、学校教育もPTAもその延長線上にあるべきだ。という氏の思いがつづられていたということです。「子どもは未来を生きるもの」ということを、改めて認識する思いがいたします。

最後に、卒業生の皆さん、あなたたちが考えてくれた「元気いっぱい・やさしさいっぱい・歌声あふれる 直小学校」のスローガン。このスローガンどおりの姿をいろいろな場面で発揮してくれた十四人に「ありがとう」と感謝します。皆さんの生き生きと輝いていた姿は、私たちに元気を与えてくれました。そして、下級生一人一人の思い出の中に、しっかりと受け継がれていきます。

これから、自分の思い通りにいかないことにたくさん出会うことでしょう。また、経験したことのない出来事に直面することでしょう。でも、そんな時こそ、冷静になって、今何をすべきか、よく考え行動してください。決してあきらめず、逃げ出さず、時には、家族の力を、時には先生や友達の力を借りながら一つ一つ乗り越えていく強い人になることを願っています。

春の日差しで木々の芽が膨らんでいくように、皆さんの「心の強さ」も膨らんでいくことを期待して、式辞といたします。